

# 多胎家庭を妊娠期から継続的に支え、 虐待を防ぐ活動

---

発表者

SwingRing～ふたご応援プロジェクト～  
理事・中川 美織

協働先

立川市子ども家庭支援センター／健康推進課

## 実施団体紹介

SwingRing～ふたご応援プロジェクト～

2016年設立 会員6名で立川市を拠点として活動中

事業での役割: **事業の企画～実施全般**

## 協働相手

立川市子ども家庭支援センター

事業での役割: **広報、会場の提供、アンケートの実施等**

## 事業概要

対 象 : 立川市の多胎家庭

目 的 : **多胎児家庭を妊娠期から継続的に支え虐待を防ぐための3事業**  
多胎妊娠・出産についての正しい知識の獲得（事業①②）  
当事者同士の繋がり、多胎育児を楽にする方法の獲得（事業③）

事業内容 : ①ふたご手帖の配布  
②多胎プレファミリー講座の実施（オンライン）  
③ふたごキャラバン（多胎フェス）の実施

# 事業① ふたご手帖配布(年度内実績18件)



◎立川健康推進課様の全面協力のもと、多胎の妊娠届を出した全戸に配布。単胎児との妊娠・出産とは全く違う、多胎妊娠・出産の知識を得てもらう。団体案内チラシを同時に配布し、その先の繋がりも案内。

R5年度からは市の事業として配布

## 事業② 多胎向けプレファミリー講座

「周囲に多胎出産した人がいない」「産後の見通しが立たない」「管理入院が心配」

多胎の出産は、単胎児とは大きく違い、情報不足に悩む人も…

- ・多胎の妊娠出産の基礎知識(日本多胎支援協会理事・元杏林大学教授 太田ひろみ先生)
- ・実際が多胎育児経験談
- ・先輩ママとの交流
- ・立川市における社会資源の紹介

知識と情報をバランスよく提供することで、出産への不安をやわらげ、産後の見通しが持てるように配慮した。また、SwingRingのメンバーと繋がることで、交流会への参加につなげるねらいがある。

# 事業③ ふたごキャラバン(多胎フェス)

ふたご・みっごファミリーがつくる子育てイベント  
**ふたごキャラバン**  
令和4年度 立川市協働のまちづくり推進事業補助金助成事業  
2022年12月3日(土) 10:00~15:00  
※雨天時 12月4日(日)順延  
会場：サンサンロード  
〒190-0012 立川市曙町2丁目42

**家族写真撮影会**  
家族の思い出に！年賀状にも！  
撮影料+データ(5カット)  
2,500円(事前予約制)※地図1

**子ども縁日**  
シャボン玉など、会場でも遊べる  
楽しいおもちゃを販売！  
ヨーヨー釣りもあそぶ※地図2

**みの一本立川**  
大人気！野菜の直売及び  
姉妹観光都市である  
長野県大町市の物産や立川市の  
観光推奨認定品を販売！※地図3

**東京すくすく(東京新聞)**  
ふたご育児漫画「ミラクル Twins」紹介  
みんなの子育てエピソード大募集！  
※先着順プレゼントあり※地図4

**フリーマーケット**  
育児グッズやおもちゃ  
お揃いの服もフリマで  
お安く手にいれちゃお！※地図5

**一般社団法人関東多胎ネット**  
ピアサポーターとお話しませんか？  
「ピア」とは少し先を行く仲間  
話をするだけでも効果は絶大です◎  
※地図6

**ふたごじてんしゃ 試乗**  
ふたごちゃんだけでなく  
年子や2歳差の  
兄弟姉妹にも！  
(無料・事前予約制)  
※地図7

**NPO法人つなげろ**  
オンラインで多胎ママ/パパと  
話しませんか？  
『ふたごのひろば』体験会を  
実施します！  
多胎×働くというテーマでの  
協力者も募集中です！  
※地図7

SwingRing~ふたご応援プロジェクト~  
swingringstaff@gmail.com

詳細・お申し込み  
各種SNSは  
こちらの  
QRコードから

## フェスのめあて

- ・引きこもりがちなご家庭の参加
- ・当事者同士の交流
- ・育児負担を減らす便利グッズの紹介・試乗・試用品提供等
- ・将来支援者となりうる方への周知、啓発(学生ボランティア)
- ・多胎育児の現状を知ってもらい、見守りにつなげる
- ・地域振興(※コロナの影響で一部のみ出店)

※詳細についてはお手元の資料をご覧ください。

## 会計報告

交付希望額	496,000円
補助金額	496,000円
申請額(実績報告)	306,226円
精算(返金額)	189,774円

※詳細についてはお手元の資料をご覧ください。

## 自己評価および課題

最終年度となる令和4年度は、この3年間の集大成となる事業であった。

この事業を開始する前には、はるか彼方にあった目標(交流会の事業化、ふたご手帖の配布など)が実現し、今後も市の事業として継続していけることになっただけでなく、ピアサポーターの育成、他団体・企業との連携など、今後も事業を継続するために必要な取り組みも可能となった。

助成金を獲得しなくても継続していける「自立」という面では、結果を出せたのではないかと思う。

多胎フェスについては、全ての子どもを対象としたイベントを令和5年度に実施することになっており、多胎という枠組みの中だけでなく、様々なバックボーンの1つのカテゴリーとしての開催を予定している。多胎だけでなく、多胎の中にあわせもつ「シングル」「貧困」など、様々な問題を包括的に支えていける団体になれるか、その仕組みを今後、行政と共に作れるかどうかということを課題に感じ始めている。



# 質疑応答(5分間)